

## 「みんなでつくろう 市民トーク」開催結果（坂部地区）

### 1 日時等

- (1) 日 時 7月31日（月） 午後7時00分～午後8時20分
- (2) 会 場 坂部区民センター
- (3) 意見交換 市長による市政情報、地区が希望する説明、質問票
- (4) 参加人数 40人



### 2 地区の希望する市政内容について説明（20:00-20:15）

#### (1) 空港隣接地域賑わい空間創生事業について

坂部地区と勝間田の一部は、改めて空港隣接地域賑わい空間創生事業になり3年が経過するところですが、全ての事業計画が完全に履行、遂行できるか大変心配と不安でなりません。前回の隣接事業のようにとり残されないよう強く約束をお願いするものであります。

#### 【回答：杉本副市長】

空港隣接事業に関しては、私も事業当時から全て関わってきました。補助率が3分の1だと、市が残り3分の2を負担しなければならず事業が進まないことから、県へ要望して補助率を2分の1に上げてもらい取り組んでいます。

新たな事業全体としては15億3千万円という補助金があります。今年度を含めた平成29年度末までの執行見込みが4億円ということで、残額は11億3千万円が平成30年度以降に残ります。

市と坂部の空港対策協議会で事業計画を作成し、優先順位を付けて事業執行をしているところです。ハツ枝毛ヶ谷線や旧畑総4号幹線（リサイクルンターから空港に向かう尾根道）、あるいは山脇橋、第一堂村橋前後の拡幅など、道路整備事業については工事に着手しています。

現J A坂部支店から宮下遺跡を通過して東名高速道路の高架下に向かう並木外之久保線など、どこまで整備するのかこれから地域の皆さんと取り組んでいか

なければならぬ事業もあります。宮下遺跡も関わってきますので、遺跡の発掘調査にお金がかかりかかるといふことも考えられますので、これから調査に入りたいと思ふます。

旧JA坂部支店から小系製作所までの細江坂部線は、広域農道と接していません。将来的には街中からはばたき橋への幹線道路になることが見込まれますので、それなりの整備が必要になるだろうと考えています。

地域の皆さんと事業内容を早期に固めないと、平成36年に間に合いませんのでスピード感をもってやっていきます。

まだ事業着手には至っていませんが、地域から声が上がっている学校周辺の整備や区民センターの増築問題もあります。こちらも現在、どういったものがよいのか企画政策課を含めて検討をしているところです。

第2次総合計画における公共施設マネジメントにおいて、20年間で公共施設の床面積を20%減らすという目標を掲げ、効果的な運営、適切な管理を検討しています。整備するだけではなく維持管理費もかかります。片浜小学校でも民間の事業者を活用するという話をしました。空港も運営管理を民間が行う予定です。いろいろな公民連携により、稼げる公共というものを考えていくことも一つの道だと思ふます。

財源については、限られた期間ですので、市としても知恵を絞って平成36年度までに確保していく。特に平成32年までに合併特例債がなくなりますので、それまでにスピード感をもって前倒しでやらなければと心得ています。

私も平成6年から平成14年までの9年間、空港に関わらせていただきました。当時はまだ空港の影も形も無いなかで、坂部の地域の皆さんに同意をいただくために、農業対策や空港隣接のことで毎日坂部に通った経験があります。そうした中で受け入れていただいた大きな事業ですので、市の負担もありますが、やり遂げなければならないという想いです。地元の皆さんにご理解をいただきながら事業計画を立てていきたいと思ふますので、よろしくお願ひします。

### 3 会場で出た意見・質問

#### (1) 小学校の統合について

坂部小学校と勝間田小学校が合併するかもしれないという話を聞きました。坂部区民としては合併して欲しくないと思ふています。色々な教育的意義を考えて、その後はどうなっていますか。

#### 【回答：坪池教育長】

学校教育のことを考えていただき、ありがたいと思ふています。一昨日、牧之原市の教育のあり方検討会が行われました。牧之原市の20年後をキーワード

に「学校教育の適正で望ましい環境のあり方」はどうあるべきかを考え、検討をスタートさせています。

日本全国そうですが一番大きな課題は人口減少で、児童生徒の数も減少していきます。財政的に公共施設マネジメント基本計画も大きな問題です。

公共施設の問題については具体的な資料を基に、たくさんの市民の方にご意見を伺いたいところではありますが、学校については20年後の将来予測というものが非常に難しいです。人口と合わせて、子どもの数も相当減っていくことが予測されます。現在、小中学校が市内12校ありますが、20年後には校舎の耐用年数60年を迎えてしまう校舎が12校中10校あります。全ての校舎を新しく建て替えるとすると、市の財政が持つのかという非常に大きな課題に迫られています。

そうした問題の前提として、牧之原市の学校教育の望ましい教育環境がどういうものなのかを考える必要があります。教育の専門家、保護者の代表など色々な教育関係者に入っていただいて、専門委員としてあり方検討を進めたい。これを1、2年間検討した上で、市内全ての小中学校の再編計画がさらに検討されていきます。

20年後とはいえのんびりできません。その時点で判断するためには、もうスタートしなければならない。校舎は一度建設するとそれから60年間は使用しなければならないので、そこで決定する内容は非常に重いものがあります。本当の学校のあり方として、適正規模・地域とのつながり・教育環境の意味合いというものも含めて考えながら、これから1年掛けて皆さんの意見を伺いながら検討していきます。

具体的に坂部小学校と勝間田小学校の合併が検討されているわけではありません。牧之原市全体の小中学校の再編問題を公共施設マネジメントと合わせて考えていくための、あり方の検討をこれから1、2年間かけて行うこととなります。それが出たところで、その後に具体的な再編計画に入っていくというスケジュールになるかと思います。